



【タリタ、クム！】(訳、「少女よ。あなたに言う。起きなさい」)

聖書本文:マルコの福音書5章35節-43節/マルコの福音書5章41節

説教者:鄭南哲牧師
(Rev.Jung nam-chul)

主イエスキリストに会って愛するクリスチャンプレイズチャーチの兄弟、姉妹の神の家族のみなさん！愛する信仰の家族みなさん！段々寒くなる事に、もう日本中にもコロナの第3波が始まったニュースばかりの一週間でした。またこれから我々が住んでいる小牧市にもコロナ感染者がいくらでも広がる可能性はありますが、現在幸い2週間前の小牧市のある会社のクラスター以後、徐々に落ち着き、先週一週間濃厚接触者などで毎日一人、二人感染者が出て、他の地域と比べ安定している様子に胸を撫で下ろしつつ、感謝しています。

最近、毎朝早天祈り会の時には参加されている方々(川副執事、桶本姉妹、福井ご夫婦、松井兄、小助川執事、朝日姉、淑英先生、土曜日は他の方々も参加)と共に、まずご自身やご家族を祈る前に、教会や牧場家族の家庭、学校、職場内での健康と安全の為熱心に祈り、特にこの小牧地域の学校や会社、人々の為にも覚え切に執り成しの祈りを捧げています。まるで学校や会社内で他の人の感染者が出たら、みんな自宅待機や勤務になってしまうように、我々が住んでいるこの町の人々や地域のコロナ感染がひどくなると、仕方なく我らの学校や職場、そして教会での礼拝も、子供たちのアワナクラブや家の教会の参加も難しくなってしまうからです。

今の時代こそ、自分の領域を越え、隣人の為の祈りが必要で大切です。今週一週間も天地万物つまり、全ての生死、世界と人類の全歴史を統べ治めておられる全能の父なる神様がどうか教会、牧場家族とこの小牧の町、隣人たちを守って下さるように切にお祈り申し上げます！

「神はわれらの避け所、また力。苦しむ時そこにある強き助け。(詩篇46:1)」アーメン！！

今日はある会堂司(管理者)の死んだ娘を生き返らせて下さったイエスキリストの御業をとして、神の恵みと愛を共に学び合う時間を持ちたいと願います。神の御子なるイエスキリストが救い主として、地上でおられ、働いておられた時に、様々な奇跡を通して、特にすでに死んだ者を生き返らせて下さる御業をなして下さったのは3回行ったことが分かります。先週ルカの福音書7章のナインという町の未亡人の死んで棺に担がれていた一人息子を生き返らせて下さった出来事でした。そして、

そして、もう一つの出来事が今日の御言葉であります。

今日の御言葉の本文を先ほど一緒に読みましたが、本文の内容は12歳の少女が重病で死にかけている危機の状態でした。そのため、彼女のお父さんはイエス様に尋ねて来てひれ伏しながら“我が娘が今病で死にそうなので是非おいで下さって直して下さい。”と懇願しました！

イエス・キリストはそのお父さんの懇願を聞いて下さって、多くの群衆の群れの中を通り越し、やっと彼の家にまで一緒に着きましたが、家の人々が来て、その娘さんはもうなくなってしまいました。

しかし、イエス様はなくなった少女がよこたわって死んでいた部屋に入り、その子に向けて「タリタ・クム！」と言われました。タリタ・クムという意味は、タリタ(少女よ)とクム(起きなさい)の合成語(ごうせいご)なのです。

この時に、亡くなっていた娘がすぐ生き返られ、ぱっと起き上がりました。人としては決してできない、本当の神様の存在じゃなければ、起こらない素晴らしい神の御業の瞬間でした。

どうしても起きれない、立ち上がれない人が立ち上がれる、起きれる素晴らしい神の奇跡だったのです。

今日、我々が生きている今の時代にも、立っていた者がいろんな理由で倒れてしまったり、くずれてしまったり、べたりと座り込んでしまって失敗から、絶望から、問題から、罪から、自分の力で、家族の力でも、どんな人の力でも、どうしようも出来ず、立ち上がれないままでどれほど、多くの人々が苦しんでいるのか分かりません。

しかし、愛するみなさん！大丈夫です。なぜなら、我らは神の御子、救い主なるイエスキリストを知り、信じているからです。救い主イエスキリストを通して必要な御救いを、回復の恵みを、おりにかなったふさわしい助けを頂けることを。イエスキリストを迎え入れ、謙遜にへり下って、信じ続けているどんな人々でも、神の御力によって起き上がらせて下さると信じて下さい。

救い主イエスキリストによって、愛するクリスチャンプレイズチャーチの神の家族のみんな、もう一度主が神の御力によってみなさんの全ての傷を癒し、弱いすべてのところに癒しの御手を差し伸べて下さって、もう一度、力強く立ち上がらせ、踏み出させて下さいますように切にお祈り申し上げます！！アーメン！

① へりくだって謙遜にあなたの今の問題を持って主の御前に行きましよう。

まず、今日少女のお父さんはどんな人でしたか。会堂司(新改訳3版:管理者)だと書かれていますが、もっと正しい翻訳すると、「会堂長(22節:the synagogue ruler)」となります。つまり、会堂長は会堂で子どもたちにも聖書を教えながら、民たちの裁判件を持つほど、当時社会的に信望(しんぼう)が厚かった高い地位の存在でした。そのような人だった彼がその当時に社会的にもまだみんなに知られてなかった、認められなかったイエス様に尋ねて来たのです。今日の本文の22節にも、そして、同じ、この出来事が記録されているルカの福音書8章41節(「すると見よ、ヤイロという人がやって来た。この人は会堂司であった。彼はイエスの足もとにひれ伏して、自分の家に来ていただきたいと懇願した。」)によりますと、彼の名前はヤイロと言う名まで、彼はイエス様の足もとにひれ伏して、自分の家に来ていただきたいと切に願っていたことが分かります。

自分にひとりしかいなかったまだ12歳の子ども娘が重病にかかってしまっていたので、自分のすべての力を尽くし、すべての手段を全部尽くしても愛する娘を治そうと努力してははずでしょう。思うに、自分が持っていたお金とか地位すべてを全部利用していたはずなのです。しかし、どうしても娘はどんどん危篤になってしまったと十分思われます。その時、イエスキリストのうわさを聞き、イエス様なら、きっと自分の娘を癒して下さると信じたヤイロは自分のすべてのメンツがまるつぶれになっても、かまわず、最後の全ての希望をイエス様に掛けて、自分より若いイエス様の御前にひれ伏し、懇願していたことが分かります。

「主の足元にひれ伏し懇願していた」ということはイエスキリストの御前で彼の真剣さと謙遜を見せてくれます。その当時会堂長の身分で、イエス様に尋ねて来ただけでも、大きな勇気が必要だったでしょう。それにひれ伏して切に願う求めたということはなかなか難しいことでした。

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！考えてみてください。

イエスキリストはナザレの田舎出身の若い預言者ぐらいで、まだまだ社会的によく知られていなかったし、公人(こうじん)にもまだならなかった存在でした。しかし、そんな雰囲気の中にあってもヤイロ会堂長は主の御前にひれ伏すことは絶対たやすい行動ではありませんでした。一体何が彼をイエスキリストの御前でひれ伏すようにさせたのでしょうか。それは彼の愛する娘が死んで行っていたためでした。ヤイロはこの世では他に頼れることがなかったからでした。もう最後的に残った希望はただイエスキリストのみでした！そして彼の最後の望みをイエス様にすべてをかけたからです。

会堂長ヤイロは自分の体面も要らなかったし、自分のメンツも、プライドも立場なんかもいりませんでした。

“我が愛する娘が死にそうです。どうか、助けて下さい。ぜひ生かして下さい。この娘は私の命より尊いです。主よ、我々の子どもを救って下さる方はイエス様あなたしかいませんので。”

多くの人々から尊敬されるほど中年の人が、若いナザレイエスキリストの御前にひれ伏したのです。

愛するみなさん！ここでもう一つ残りの今年中にもずっと覚えるべきことは、問題を持ってイエス様の御前に行きましよう。

ヤイロは今問題にかかっていたため、イエス様の御前まで出てくる機会となりました。もしヤイロに苦痛がなかったのであればこの会堂長は決してイエス様に来れなかったはずでしょう。一生イエス様と関係のない人生を歩んでしまったかも知れません。

しかし、人生の一番大変耐え難い苦しみを通してイエス様に会い、イエス様にまで導いて良いきっかけと機会にもなっていたことを忘れないで下さい。

ですから、今日集まっているみなさんも人生を振り返って見ると、耐えがたい人生の悩み、苦しみ、問題にかかっているならば、それを持って、謙遜にイエスキリストの御前に行きましよう。全てを委ね、神の救いを、癒しを、御助けを求めることにより、今も生きておられ、共におられるイエスキリストの恵みと御力を体験できますように切にお祈り申し上げます。

人生の絶えられない苦しみの試練があった時、キリストへの信仰がない方々はその自体が不幸で、絶望に陥りやすいのですが、我々にはかえってその苦しみが我々をもっと謙遜にさせ、イエス様の御前に行きましよう。そこに神の大きな恵みと御救いも、真の解決も経験できると信じます。

このお父さんのイエス様への信仰と謙遜な姿が我々の姿になりますように切にお祈り申し上げます。

神の前での謙遜がいのちです！神様の御恵みは謙遜にへりくだった信仰の態度を持つ時に訪れます。

残りの今年中自分の人生を苦しませる問題にぶつかるたびに自分の頭、自分の力、やり方、考えで問題をもっと悪化させ巻き込まれないで、へりくだって主にもってきましよう。今も皆さんがかかっているすべての問題がありました

ら、2020年のうちにイエスキリストがすべてを解決して下さる救い主イエスキリストの恵みの年となりように主の御名によって祝福します。アーメンですか。アーメンです。

② どんな絶望的な状況の中でもイエスキリストのみを信じ続けましょう。

今日の本文35節を読んで見ると、ヤイロさんはイエス様に懇願して連れて頂いている途中に、自分の家から人がやって来て悲しい絶望的な話をします。

“35節、もうあなたのお嬢さんはなくなりました。”もうすべての状況は終わり、希望も、望みもすべて消え去ってしまったという死の報告でした。イエス様ももう遅かったようでした。

家に着いたら、家族みんなは取り乱(みだ)し、大声で泣いたり、わめいたり、悲しみと絶望の中で暴れ、苦しんでいました。“もうすべてが終わりです。イエス様さえもこれは絶対不可能です。あなたを招いた意味がなくなりました！”

しかし、この事までもうご存知だったイエス様は36節に、何とおっしゃっていたのですか。

「恐れなくて、ただ信じていなさい。」ここで、原語ギリシャ語聖書の正しい意味は、「恐れなくて、ただ信じ続けなさい。」と言う意味であります。これは現在形の命令で、信じ続けなさいという意味なのです。

信じることをやめ続けなさい。という意味です。

最悪の絶望の中でも我々が忘れてはいけなことがあるあります。

それは、しばらくさらなる問題と絶望に陥られた時こそ、ただ主を信じ続け、強く握り締め続けることでした。

イエスキリストは、今我々にも語って下さっています。

「どんな場合にも、まるですべてがもう終わったような状況にあっても、続けて信仰をあきらめないで、ただ主のみを信じ続けなさい。そうするとかならず想像もできなかった神による奇跡が起こる！」

ヤイロは絶望の状況の中でもイエスキリストを信じて、イエス様に従ってなくなった娘がいるところへ行きました。そして、イエスキリストは、少女に向かって「タリタ・クム！（少女よ。あなたに言う。おきなさい）」と宣布すると、少女はすぐさま起き上がり、歩き始めました。

死んだ者は決して自ら起き上がることはできません。本来死んだ者たちは自ら自分の力で起き上がれないように、自分の力で死から立ち上がれないのです。死はすべての人を飲み下します。

しかし、イエスキリストは自分を信じる者には死が永遠の死ではなく、永遠に生きるための過程にすぎないと約束してくださいました。だから、イエス様は、いつも信じて死んだ者を、死んだと言わず、眠っているとおっしゃいました。

39節です。「その子は死んだものではありません。眠っているのです。」

ヨハネの福音書11章に、ベタニアという町で親がいなく住みながら、イエスキリストを愛し、また愛されていた3兄弟(兄ラザロ、マルタとマリア)の中、病気で兄ラザロが死んで四日も経て臭くなっていたお墓の前で、「ラザロも眠っている」とおっしゃったイエスキリストは、祈りを捧げてから、大声で「ラザロよ。出て来なさい。(ヨハネ11章43節)」叫ばれ宣布された時、死んでいた彼が、ラザロの手と足を長い布で巻かれたまま生き返られ出て来た出来事もありました。

ヨハネの福音書11章25-27節で、「25イエスは彼女に言われた。「私は、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。」26また生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません。あなたは、このことを信じますか。27彼女はイエスに言った。「はい。主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストであると信じております。」

愛する、クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさんも、このイエスキリストをかたく信じていますか。信じる全ての者に神の御救い、永遠の命、変わらない約束を我らにされています。

③ 落胆せずに、イエスキリストの御名によって祈り続けながら、神の御救いと御助けを待ち望みましょう。

ルカの福音書18章を読んで見ますと、イエスキリストはいつでも祈り続けながら、失望してはならないことを教えるために、イエス様が例えでお話しされた内容が出ています。

不公平なうちを受けて悔しがっていたあるやもめさんがあきらめずに裁判官に呼び求め続けた時に、しばらくは彼女の懇願(祈り)が面倒臭いでとりあわないようにしていた裁判官が結局、絶えず求め続けていた彼女の願いを聞いてくれたと言う内容が書かれています。

「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれます。」(マタイ7:7-8)

この御言葉はただ一回だけ、求め、一回だけ探し、一回だけたたきなさいという意味ではありません。

本来の意味は、求め続けて、探し続けて、たたき続けなさいという意味なのです。いつまでですか。

門が開かれる時までです。まだ我々の中で解決されなくても、絶えず主にとどまりながら、絶えず求めて、残りの今年が人生の中で一番よく答えられた祝福と逆転の残りの今年となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。

もちろん、神様はただ一回の祈りだけでも十二分我々のすべての問題を解決することができるお方です。しかし、主が確かに緊急な時だとされる場合じゃない時は問題をすぐ解決して下されず、延ばして下される時もあります。なぜでしょうか。**主は我々により祈り続け、実際、イエスキリストと共に交わりながら、神の栄光を、神の御救いを、神の御助けを体験することが喜ばれ、望んでおられるためであります。**

信仰のある人は神様を信じますから待ち続けます。主の約束と祝福を信じ、主の力を信じる為、すべてを自分よりご存知であられる主が一番ふさわしく導いて下さることを信じて、たえず祈りながら静まって待ちましょう。我々も残りの今年の主の御前にひれ伏し、たえず祈りながら失望に陥らないように気をつけましょう。

愛するみなさん！よく考えて見て下さい。祈る人が祝福されているのでしょうか、祈らない人が祝福されているのでしょうか。みなさん、我々がいつも問題のある時だけ祈るから、祈り課題がない時が幸せだと勘違いしたことはありませんか。そうすると、いつもさまざま問題に追われて、すべての問題を予防することもできず、問題のすべての苦しみを全部味わってから祈るのは結構遅い気がするのではないのでしょうか。主にある豊かな人生を味わえるため、今より、神様の豊かな祝福を味わえるためには以前よりもっと積極的に先どりに祈る必要があるのではないのでしょうか。ぜひ覚えましょう。我々が祈っている以上の人生にはならないことを。

2020年、今年中いくら絶望の時があったとしても、最悪のような絶望の中に置かれていても、主のみをただ信じ続け、祈り続ければ、その信仰によってイエスキリストは必ず、すべてを解決し、すべてを回復して下さる神の愛の奇跡を实际体験することになると信じます。

タリタ・クム！今日から毎日このイエスキリストの御言葉を信じて、自分に宣言し、宣布し続けながら、残りの今年力づけられ、起き上がり、立ち上がり、大胆に前進し続けるみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます。アーメン！